

おおぞら

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

第220号

2024年10月1日発行

発行責任者 山本 貴道

編集者 木部 哲也

2024年10月1日 おおぞら

通所研修

今年度は、児童発達支援、放課後デイ、生活介護と合同で研修を行いました。
「情報伝達・情報共有について現状を見直し、的確な伝達・共有をすることでチーム力を上げる」をテーマに、みんなで見交換をしました。
防犯訓練では、さまざまな使用方法を実践して学びました。骨折の検討会、消火器、消火栓訓練、緊急搬送訓練を行いました。



1日、内容盛りだくさんで、学びの多い研修となりました。

リレーエッセイ

子どもとの触れ合いの時間

事務所 神田 純一

私には、9歳と5歳の娘2人がいる。

子どもとの触れ合いは、日々の小さな瞬間に喜びや驚きを教えてくれる特別な時間。

純粋な笑顔や好奇心に触れる度に、自分の心も温かくなる。子どもと接する中で、忍耐力や思いやり、想像力など、大人になっ

ても大切なことを学んでいることに気づかされる。

また、子どもたちは、私たちの行動や言葉を鏡のように映し出すため、たまに子どもたちの言動を見て反省することもある。

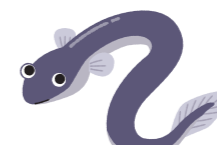
こういった日々の小さな触れ合いの中で自分自身も子どもと一緒に成長して行けたらと思う。



おおぞら食事紹介

うなぎは昔から夏バテに効果があると食べられてきました。

8月5日の土用の丑の日に、「うなぎの蒲焼き」



を提供致しました。

疲労回復には、たんぱく質を多く含む食品(肉や魚、卵、大豆製品など)と、ビタミンやミネラルを多く含む食品(野菜等)と一緒に摂取することも大切です。上手に組み合わせて食べるようにしていきましょう。



【献立内容】

鰻蒲焼き、ひじきと揚げの煮物
キャベツの浅漬け風、グレープゼリー

栄養課 管理栄養士：原・白井・渡瀬

家族支援について

児童発達支援センターひかりの子・通所あさひ課長 篠ヶ瀬 信行

今年の1月と2月に静岡県医療的ケア児等支援センターが開催した当事者家族向けセミナーにオンラインで参加しました。1月が「障害のある子どもを抱えて働く」ということは?というテーマ、2月が「家族(きょうだい児)への支援とは?」というテーマでした。

1月の回では、当事者家族の親御さんが3名パネラーとして参加され、それぞれの体験・思いを話されました。子どもさんのために一旦仕事を辞めて介護・看護に専念し、その後、制約がある中で再就職されるなど、葛藤や困難がある中で生活されている現状が伝えられました。学校や通所先のスケジュールに合わせるしかない現状、周囲の家族や職場の協力や理解がないと成り立たない現状が語られました。

今年度の1月と2月に静岡県医療的ケア児等支援センターが開催した当事者家族向けセミナーにオンラインで参加しました。1月が「障害のある子どもを抱えて働く」ということは?というテーマ、2月が「家族(きょうだい児)への支援とは?」というテーマでした。1月の回では、当事者家族の親御さんが3名パネラーとして参加され、それぞれの体験・思いを話されました。子どもさんのために一旦仕事を辞めて介護・看護に専念し、その後、制約がある中で再就職されるなど、葛藤や困難がある中で生活されている現状が伝えられました。学校や通所先のスケジュールに合わせるしかない現状、周囲の家族や職場の協力や理解がないと成り立たない現状が語られました。

支援者として関わる中で、ご兄弟の思いを伺うことが本心に少ないため、貴重な機会となりました。この回で、ご兄弟の方が語られた中で特に印象に残っていることがあります。「周囲の人たちに『大変だね、無理していい?』など声をかけられたり、ヤングケアラーという言葉が社会でよく聞かれるようになったが、自分は兄弟のケアを自分自身でやりたいと思いついた。無理しない範囲でやっていたので、何も負担に思わなかった。兄弟だからとかわいそうと思ってしまう」という言葉です。

静岡県医療的ケア児等支援センター
住所：静岡市駿河区有明町2-20 静岡県静岡総合庁舎別館3階
電話：054-204-1380 FAX：054-204-1385
E-mail：shizuoka-ikea@bz04.plala.or.jp
静岡県のホームページ内に紹介されています。

苦情解決委員会
2024年4月～2024年6月
期間中公表を希望される苦情はありませんでした。
(期間中受付した苦情1件でした)

	5月	6月	7月
ショートステイ利用者数(延べ利用日数)	49人(250日)	54人(277日)	51人(270日)
放課後デイ利用者数(延べ利用日数)	18人(77日)	21人(93日)	21人(97日)
実習者数(グループ数)	1人(1グループ)	0人(0グループ)	0人(0グループ)

ひかりの子の1日

高橋 せい子

児童発達支援センターひかりの子の児童発達支援事業（未就学児童対象）の日常を紹介します。ひかりの子の開始時間は、9時からです。現在は、1歳半から6歳の就学前の子も通っています。

10時から朝の会が始まります。それぞれに合った椅子に座り、グランドピアノの演奏に合わせてひかりの子ソングを歌うことから始まります。子ども達が選んだ楽器を手に持って、歌に合わせて音を出します。歌が終わると、今日の日にちと「お天気」のカードを見せて紹介します。次は、子どもの手を取り1人ずつダンスをして名前を呼びます。お返事をしてもらった後、自分の写真をホワイトボードにつけてもらいます。自分の写真をじっくり見てから上手に写真を付けてくれます。



今月の歌（毎月季節に合った歌）を手遊びしながら歌いリズムを楽しみます。今日の給食を紹介して朝の会は終わります。

次は、リハビリ担当職員が、月替わりで季節感のある楽しい体操を考え行います。10時半からは、曜日と週で立てた活動プログラムを子ども達の発達に合わせて行います。月曜日は感覚・火曜日は、個別活動、水曜日は感覚・手操作（製作）、木曜日は、音・見る、金曜日は、粗大遊びとなっています。活動の時間には、リハビリ担当職員の個別訓練もあります。

このような活動を、ご

家族の方に知って頂くために、年に2〜3回の参観会や保育参加を計画しています。

11時半から、昼食の時間です。経管栄養の子ども達と、経口摂取の子ども達がいいます。子ども同士の存在を意識出来るように見える位置で場所をセッティングします。

午後は、午睡が必要な子どもは、眠れるよう環境を整え、寝ない子は、絵本を読んだり、音楽を聴いたり、玩具で遊びながら過ごします。



15時におやつを食べたり、水分補給をします、お帰りの時間は、それぞれのご家庭の都合により異なります。



違います。ご家族のお迎えが来るまで、ボールや絵本、玩具で遊んで過ごします。16時45分が、最終時間になります。毎日来ている子どもは、週に2、3回と、子どもたちによって登園する日数や曜日が違います。他事業書と平行通園している子どもは、ご家庭も、近くの子もいれば、遠くから通ってくる子ども、みんなそれぞれです。同じ空間で一緒に遊び、1日過ごす事ですぐに環境にも慣れ、どの子ども達も元気に笑顔で過ごしています。



職員一同日々アイデアを出し合い活動を考えています。これからも、ひかりの子は、子ども達の成長に寄り添い、子ども達の笑顔あふれる生活を支援していきます。

うららの活動

加藤 嗣也

うらら利用者の活動は語りかけや歌いかけの聴く活動以外にも、利用者によっては動きを見る活動や職員とのやりとりを楽しむ活動を行っています。

今回紹介する活動は、ものの動きを見る活動で

この活動をやっていく利用者Aさんは、日常リビングで行き交う職員を目で追ったり、近づいていくと職員の顔をじっと見ます。またテレビやDVDプレーヤーの映像も注目していることがあります。

この、ものの動きを見る活動では、写真のような箱の台の上がすり鉢状になっている物を使います。ビー玉を転がすと反動を伴い、箱の縁に近づくと、その後ゆっくりと中心の穴に向かって加速していく動きをします。Aさんの個別活動として行う中では、1つ目のビー玉を袋から取り出すところからよく見ていて、台の上に転がし始めると、ビー玉の動きを目で追っていました。2つ目、3つ目と転がしていくと、1つ目と同じように転がっていくビー玉を目で追って、最後に中心の穴に落ちるまで注目していました。中心の穴に向かって転がる不規則なビー玉の動きが面白いようでした。また、転がした時に伴う「ゴー」という音もあることで、より注目している様子でした。最後に複数のビー玉（5〜6個）を一度に転がすと、台の上全体に視線がよく動いて中心の穴に向かって次々落ちていくビー玉がなくなるまで見ていました。ビー玉が全て落ちると職員と顔を見合わせる様子もありました。



今後もうらら利用者の個別生に合わせた活動を行って行きたいです。



生活支援課研修

生活支援課では毎年1回、新人研修、2〜4年目研修、中堅研修を実施しています。今年度2〜4年目研修では、『利用者本位と職員本位』の内容で行ないました。実際の現場の写真をしながら、なぜ職員本位となってしまうのかを考え、グループで議論しました。その後、利用者本位の関わりをするために生活支援



2、3、4年目研修 グループワーク

現場の写真をしながら、なぜ職員本位になってしまったのか、どのように改善すべきかなど、日々の自分たちの行動をふりかえりながら議論しました。

中堅研修は、4つの研修内容から希望するものを選ぶようにしています。今年度は『0歳児はどんな遊びをしながら成長していくのか。実際に素材で遊びながら小児の発達について考えてみよう』、『伝える技術を磨こう（コミュニケーション）』、



中堅研修 「伝える技術を磨こう」演習

「自分の事を話す」「相手の話を聞く」を体験しました。話すコツ、聞く力のスキルを意識することで、自分の癖やスキルを使うメリットを体験できました。

「チームビルディング入門」、『今の時代に求められる後輩指導』の4つです。ここ数年、中堅研修は選択制にしています。興味のあるもの、学びを深めたいもの、新しい知識を得たいものなどを自ら選ぶことで、より積極的な参加や学び、現場での実践に生かせることを期待しています。



中堅研修 「伝える技術を磨こう」演習

個人が指示通りに絵を描きました。同じ「言葉」を聞いたはずなのに、出来上がった絵はみな違う絵でした。演習を通して「同じ体験でも、自分が感じるように他者が同じように感じるとは限らない」ことを実感し、それがコミュニケーションに大きく影響することを体験しました。